◇タイ研修生を栃木に迎える

栃木支部長
山崎　裕司

訪タイする度に、谷口先生のご奮闘の姿を拝見し、何かもっとお手伝い出来たらと考えていたので、今年は栃木支部を発足させ、谷口先生のコンテスと研修生を栃木で受入れる事にした。然し受入にはビザ取得が難しいので、国際問題に関心の高い安佐農協の島田組合長に相談したところ快諾を得、早速手続をされ、招聘できた。

初日は早朝4時より成田へ車で高速を飛ばし2時間で着き、1時間待ちすっかり夜が明けてから、トムさんを団長とする7人が到着。午後は熊本より須賀理事も駆けつけられた。

二日目はビザで大変お世話になった安佐農協の島田組合長を表敬訪問した。続いて高橋専務が施設を案内。青果センター、ライスセンター、デイサービスセンター、観光農園、農協運営の厚生病院、最後にセレモニーホール等を見て回った。研修生は農協の多角経営には驚いていた様である。どの施設も説明を熱心に聞き、質問も答弁に戸惑う程積極的に発言していた。

各農家の経営法も見学。夜には当支部の里親達が夫婦で歓迎会を開き、トムさんは里子から預かった手紙とお土産を里親に渡したり互いに親睦を深め合い、何だかタイとの距離が近くなった様だと里親たちは喜んだ。又谷口先生の要望でもあった、アジアやアフリカから研修生が多いアジア学院と有機農業を実践している帰農志塾も見学、両方とも谷口さんにはタイでお世話になったとの事で歓待された。中学も視察に行き学校内の説明の後で体育の先生が日本独自の剣道を披露して頂き、タイの人には珍しかったと思います。

最後に日光東照宮見学、丁度紅葉が素晴らしく歓声が上がった。本殿を始め華厳の滝等皆パチリパチリと夢中に記念撮影。帰国前夜は送別会。僅か八日間であったが日本語も上達、この日本での研修を生かし、今後活躍される事を祈ります。

研修生を受入れるに際し、多くの方々のご協力とご支援を頂き、無事任を果たす事ができた事を心より感謝申し上げます。

◇コンテスト研修生の感想文

パヤオ農高3年
ジャドウポーン・カーイン

前略　研修期間中に私達は様々な所に行って、タイには無い変わったものや新しいものを見てきました。その中でも感動した事や、意味があり、タイの社会にも使えることを挙げたいと思います。

1．日本農家の方は、米作りの作業、植えてから刈獲るまでをたった家族2人で1㌶位の広い土地を耕作しています。それは機械を使うからです。日本農家は農協に所属しており、高能率で水田の仕事を行っていました。農家は大型のトラクターを使う事が出来ます。農民に対する融資もタイの様に問題になっていません。タイの農民は借金が大変多く、一番の問題はどのように返済するかです。

2．炭作りについては、私は大変変わっていると思いました。炭作りは私も村の中で見た事があります。タイでは炭焼き人は、切った生でない物を持ってきて、あらかじめ掘っておいた穴に置き、そして通気穴を作っておき、土を掛けて埋めてしまいます。1回の炭焼きに約1週間かかり、製品を売る事が出来ます。炭を焼く人は窯の火が無くなったか見ることは出来ません。それで勘に頼らざるを得ず、たまにまだ火が消えていない時があります。生産量は減り、時間がかかり、しかも投資に見合った完全な製品を作る事が出来ません。ところが日本の炭焼きは、とても丈夫な窯列が作ってあり1度作ればずっと使う事が出来ます。たまに修理していけば毎日焼く事が出来ます。そして大変良い製品を生産する事ができ、日本の炭焼きはタイより能率的だと思いました。

3．日本人の生活、文化、伝統について。日本のそれはどこの国とも異なると思いました。挨拶にしても、人を迎える事にしてもです。日本人の生活については大変規律があると思いました。たとえば交通の事です。皆、乗り物を運転する時には、厳格に交通規律を守っていました。私が感動したのは、日本の若者にはタイの若者のようにバイクを運転しているのを殆ど見かけなかった事です。バイクを運転する人が皆ヘルメットをつけていると言う様な事はタイではありません。もうひとつは、日本の人はスポーツが大変好きだということです。私達が様々な所へ研修に向かう間に、道の両側で運動場を見かけました。それもタイに比べて大変数が多いです。

4．清潔さについて。日本の街で道路や建物の中が大変綺麗だと思いました。紙くずやゴミが落ちてなくて、どこにでもゴミ箱がきちんと設置されていました。そして日本の国民もその事に一致協力していました。

5．JAについて。農協は日本の人々にとって大変重要なものです。生まれてから亡くなるまで、組合、団体が責任を持っていました。経営も大変能率的だと思いました。

私が感動したのは、日本の皆様が私達を快く迎えて下さったことです。私達が快適であるように常に気を使ってくださり、大変気持ちよく研修する事が出来ました。今回の日本の研修で得た知識と経験を、今後、タイの社会の中で生かしていきたいと思います。

この度は大変有難うございました。